

震災による子どもと保育者のストレスに関する調査 －北海道胆振東部地震時の園の対応と地震後の状況調査－

北海道保育保健協議会

古田 博文、吾田富士子、吉木 美恵

【はじめに】

2017年告示、2018年より施行された新保育所保育指針には災害に備える事項が新しく明記された。各保育園においては災害等に備えるマニュアルは既にあるものと考えられるが、2018年9月6日未明に起きた北海道胆振東部地震において有効であったのだろうか。

また、地震時の保育環境や対応、地震後の子どもたちや保育者の心身の状況はどうであったのか、実態を調査し、子どもの命を守るための保育環境整備と保育園に必要な備えを明らかにする。

【目的】

1. 北海道胆振東部地震時の保育園等の被害状況と対応の実態を明らかにする。
2. 地震後の子どもと保育者のストレスの実態を明らかにする。
3. 子どもの命を守るための保育環境整備と保育園に必要な備えを明らかにする。

【方法】

調査方法：北海道内の保育園に質問紙調査を行なった。調査用紙は郵送し、回収はFAXで行った。

調査対象：当協議会会員が所属する121保育施設および北海道胆振東部地震で大きな震度が観測された胆振・石狩地方に立地する99保育施設、合計220施設の施設長

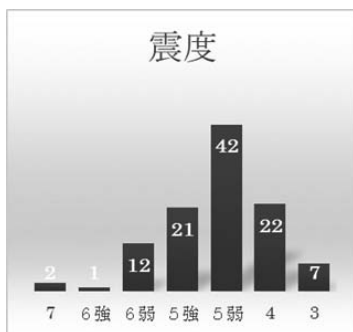
調査期間：2018年10月～12月

回収数(回収率)：107件 (48.6%)

【結果】

1. 回答園

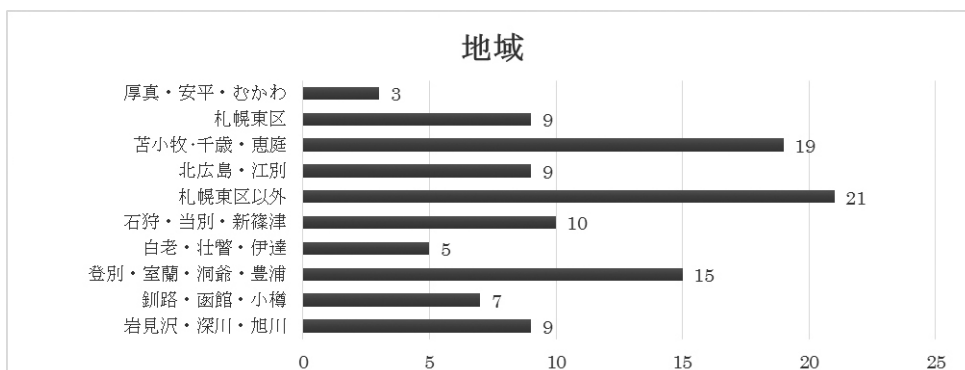
1-1. 震度



震度	数	%
7	2	1.9
6強	1	0.9
6弱	12	11.2
5強	21	19.6
5弱	42	39.3
4	22	20.6
3	7	6.5
合計	107	100

1-2. 地域

地域	数	%
厚真・安平・むかわ	3	2.8
札幌東区	9	8.4
苫小牧・千歳・恵庭	19	17.8
北広島・江別	9	8.4
札幌東区以外	21	19.6
石狩・当別・新篠津	10	9.3
白老・壮瞥・伊達	5	4.7
登別・室蘭・洞爺・豊浦	15	14
釧路・函館・小樽	7	6.5
岩見沢・深川・旭川	9	8.4
合計	107	100



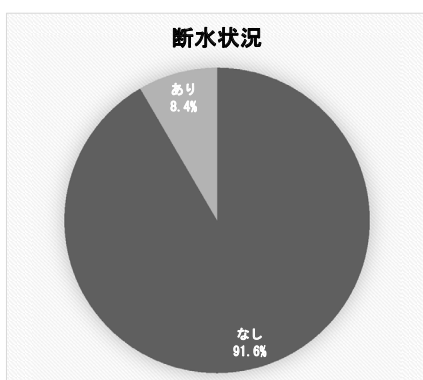
2. 保育園の被害状況と対応の実態

2-1. 停電状況(電気回復状況)



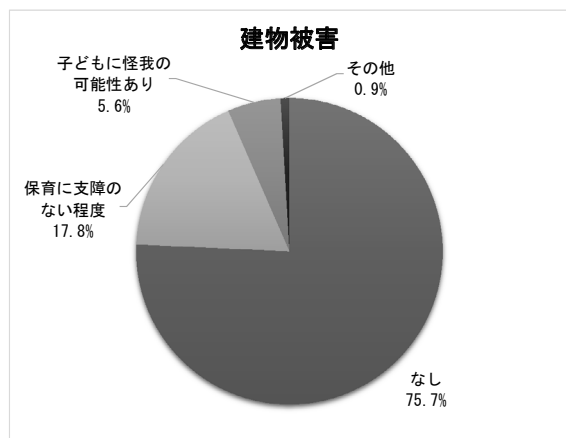
	数	%
6日午前	4	3.8
6日午後	26	24.5
7日午前	19	17.9
7日午後以降	57	53.8
合計	106	100

2-2. 断水



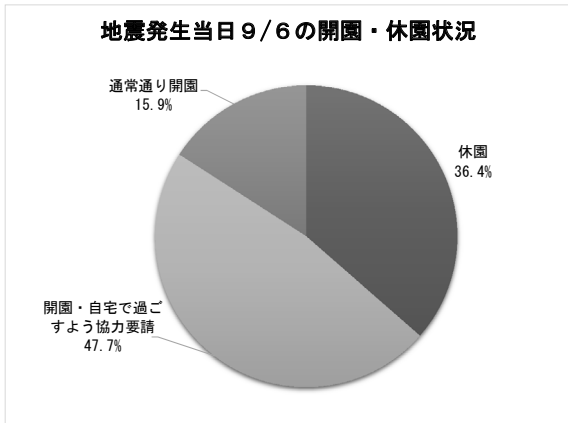
	数	%
なし	98	91.6
あり	9	8.4
合計	107	100

2-3. 建物被害



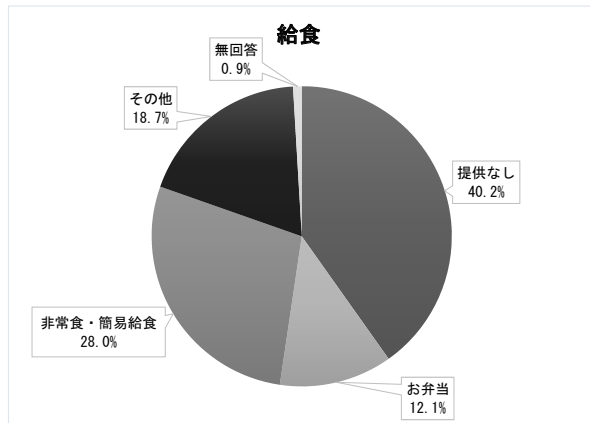
	数	%
なし	81	75.7
保育に支障のない程度	19	17.8
子どもに怪我の可能性あり	6	5.6
その他	1	0.9
合計	107	100

2-4. 当日の開園・休園状況



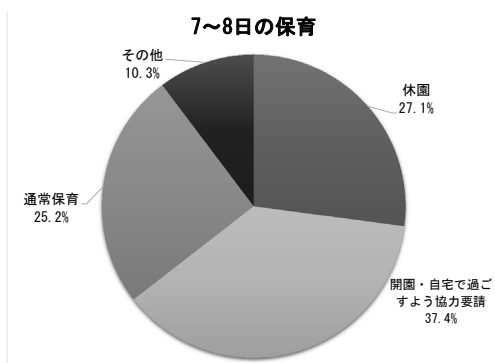
	数	%
休園	39	36.4
開園・自宅で過ごすよう協力要請	51	47.7
通常通り開園	17	15.9
その他	0	0.0
合計	107	100

2-5. 給食提供状況



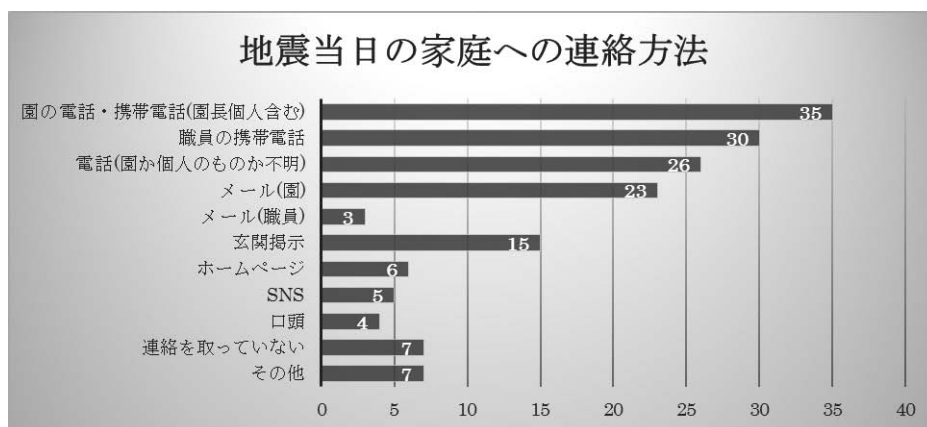
	数	%
提供なし	43	40.2
お弁当	13	12.1
非常食・簡易給食	30	28
その他	20	18.7
無回答	1	0.9
合計	107	100

2-6. 翌日からの開園・休園状況



	数	%
休園	29	27.1
開園・自宅で過ごすよう協力要請	40	37.4
通常保育	27	25.2
その他	11	10.3
合計	107	100

2-7. 地震当日の家庭への連絡方法(複数回答)



園の電話・携帯電話(園長個人含む)	35
職員の携帯電話	30
電話(園か個人のものか不明)	26
メール(園)	23
メール(職員)	3
玄関掲示	15
ホームページ	6
SNS	5
口頭	4
連絡を取っていない	7
その他	7

2-8. 具体的な給食提供状況

① 非常食・簡易給食(30)

- 届いた食材、冷蔵庫の在庫、冷凍していた肉、魚、畑の作物等の食材で献立を一部変更し提供
- ガス、水道は使えたが、安全確認に不安有、非常食対応
- ほぼ献立通り、おやつは市販品で対応

〈具体的に〉

めん類(3)、おにぎり(3)、災害用のパン(2)、アルファ米、アルファ米のおかゆ(離乳食の子どもだったため)、おでん、サバ缶(非常食使用)、レトルトカレー、備蓄の野菜で肉なしのカレー味噌汁、具たくさん汁物、ブロッコリー、枝豆、ミニトマト、りんご、果物、チーズ、麦茶

② その他(20)

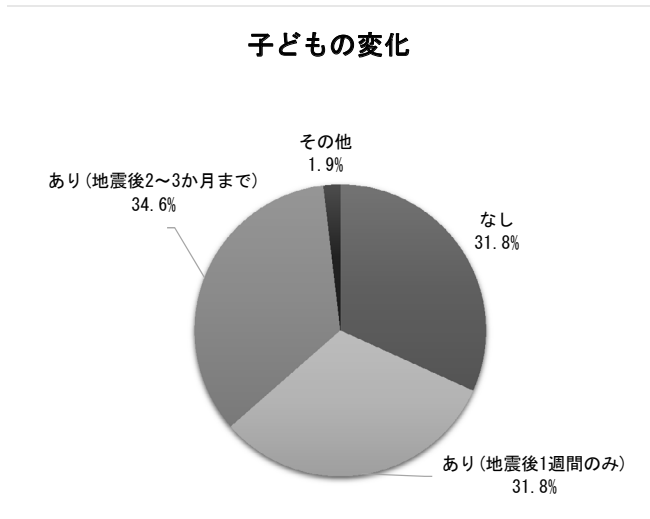
入手可能な食材でメニューを変更して提供(9) 通常通り(7) 提供なし(2)

〈具体的に〉

- ラーメンのめんだけ代用(はるさめ)
- 給食提供分の食材が配達されたため、災害訓練として出勤職員分の給食を提供
- 発注はしていたので当日栄養士が食材を取りに行き通常の給食を提供
- 食材の温度が下がらず保っていたので献立どおり提供
- 6日は登園人数分の給食だけは献立変更し提供、7～8日はお弁当の協力をいただいた
- 6、7日と遠足だったため、6日はお弁当を持ってきてもらった。
- 未満児のみうどん、3歳以上児のみお弁当、あるもの(パンなど)
- 遠足を予定していたためお弁当持参

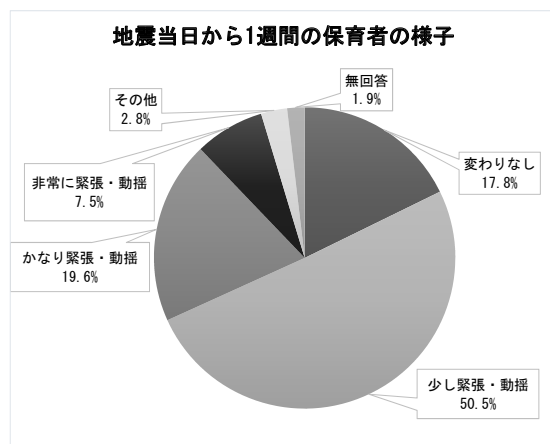
3. 地震後の子どもと保育者のストレスの実態

3-1. 子どもの変化



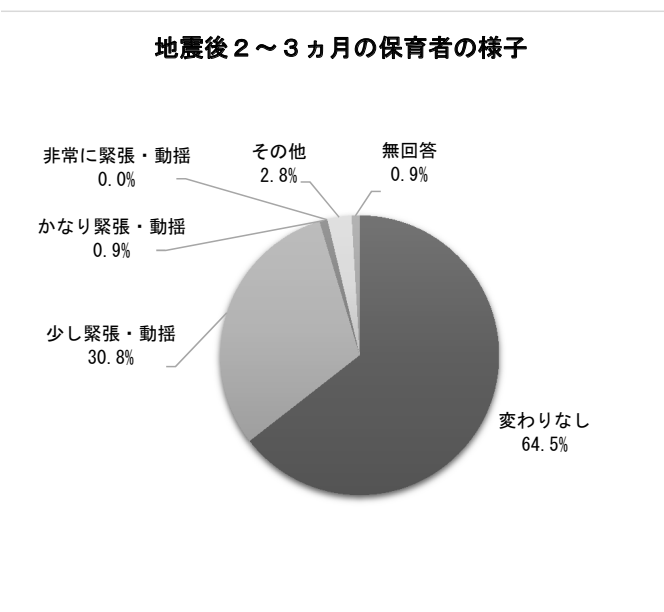
	数	%
なし	34	31.8
あり(地震後1週間のみ)	34	31.8
あり(地震後2~3か月まで)	37	34.6
その他	2	1.9
合計	107	100

3-2. 地震当日から1週間の保育者の様子



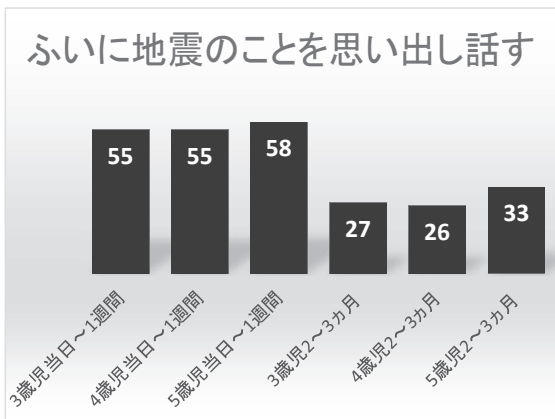
	数	%
変わりなし	19	17.8
少し緊張・動揺	54	50.5
かなり緊張・動揺	21	19.6
非常に緊張・動揺	8	7.5
その他	3	2.8
無回答	2	1.9
合計	107	100

3-3. 地震後2~3カ月の保育者の様子



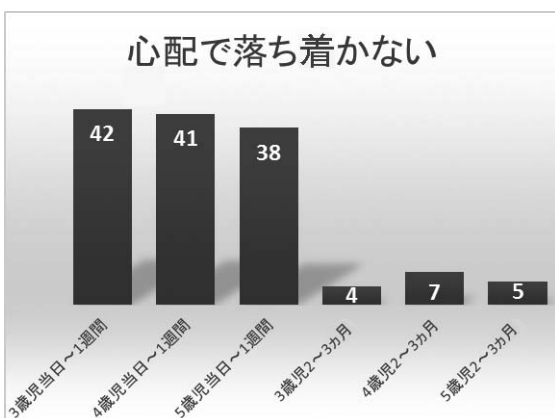
	数	%
変わりなし	69	64.5
少し緊張・動揺	33	30.8
かなり緊張・動揺	1	0.9
非常に緊張・動揺	0	0.0
その他	3	2.8
無回答	1	0.9
合計	107	100

3-4. 子どもの変化①「ふいに地震のことを思い出し話す」



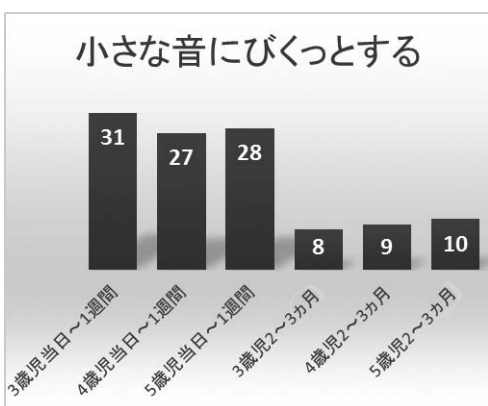
ありと回答合計 60 園	園数
3 歳児当日～1 週間	55
4 歳児当日～1 週間	55
5 歳児当日～1 週間	58
3 歳児 2～3 ヲ月	27
4 歳児 2～3 ヲ月	26
5 歳児 2～3 ヲ月	33

3-5. 子どもの変化②「心配で落ち着かない」



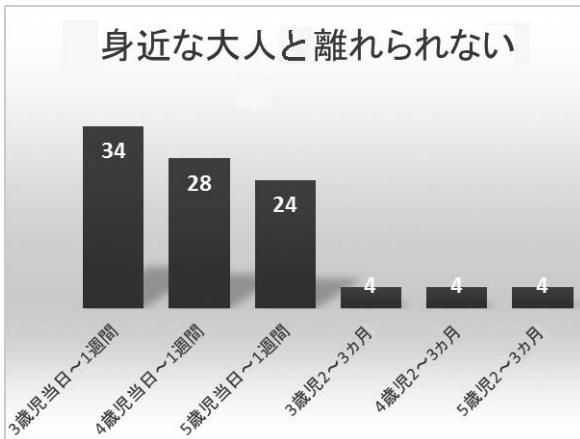
ありと回答合計 50 園	園数
3 歳児当日～1 週間	42
4 歳児当日～1 週間	41
5 歳児当日～1 週間	38
3 歳児 2～3 ヲ月	4
4 歳児 2～3 ヲ月	7
5 歳児 2～3 ヲ月	5

3-6. 子どもの変化③「小さな音にびくっとする」



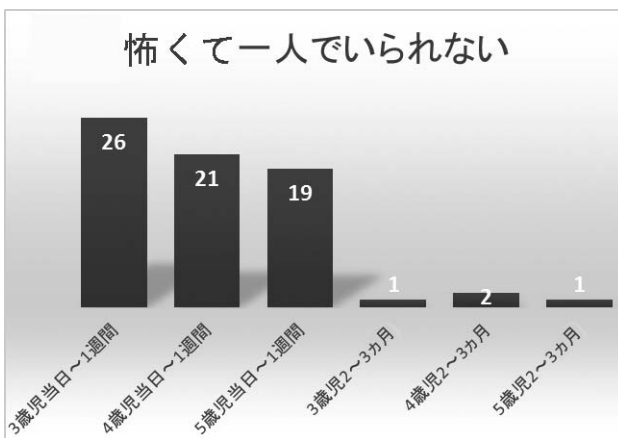
ありと回答合計 36 園	園数
3 歳児当日～1 週間	31
4 歳児当日～1 週間	27
5 歳児当日～1 週間	28
3 歳児 2～3 ヲ月	8
4 歳児 2～3 ヲ月	9
5 歳児 2～3 ヲ月	10

3-7. 子どもの変化④「身近な大人と離れられない」



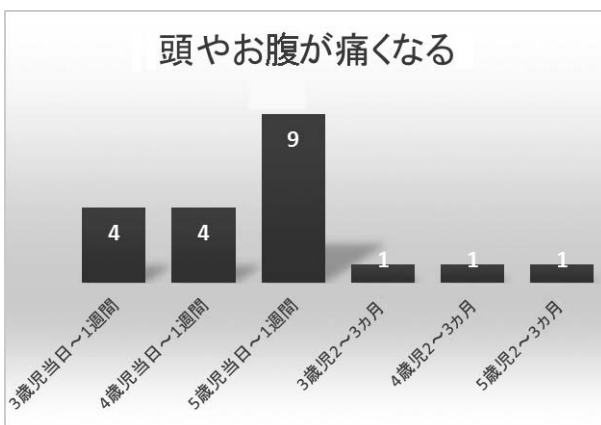
ありと回答合 39 園	園数
3 歳児当日～1 週間	34
4 歳児当日～1 週間	28
5 歳児当日～1 週間	24
3 歳児 2～3 ヲ月	4
4 歳児 2～3 ヲ月	4
5 歳児 2～3 ヲ月	4

3-8. 子どもの変化⑤「怖くて一人でいられない」



ありと回答合 30 園	園数
3 歳児当日～1 週間	26
4 歳児当日～1 週間	21
5 歳児当日～1 週間	19
3 歳児 2～3 ヲ月	1
4 歳児 2～3 ヲ月	2
5 歳児 2～3 ヲ月	1

3-9. 子どもの変化⑥「頭やお腹が痛くなる」



ありと回答合 10 園	園数
3 歳児当日～1 週間	4
4 歳児当日～1 週間	4
5 歳児当日～1 週間	9
3 歳児 2～3 ヲ月	1
4 歳児 2～3 ヲ月	1
5 歳児 2～3 ヲ月	1

自由記載（抜粋）

- 地震の話をよくする。ごっこ遊びの中で地震がきたと頻繁に言う（震度5弱）
- 地震を再現する遊びが出ていた（震度5強）
- 5歳児で腹痛やおう吐の症状を訴える（震度5弱）
- 3歳児、余震がくると園で泣く事がある（震度5弱）

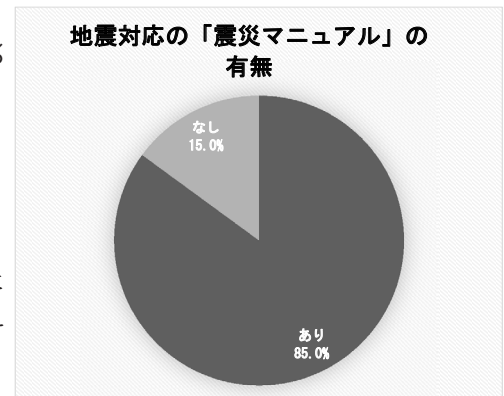
4. 子どもの命を守るための保育環境整備と保育園に必要な備え

4-1. 震災マニュアルの有無：あり91園85.0%、なし16園15.0%

4-2. 自由記載「困ったこと、備えておくべきこと」

- ① 電源の確保（発電機等）：各家庭への連絡、調理、冬季の暖房、流通が止まることによる給食提供等が課題
- ② 実際を想定した災害マニュアルの見直しと整備
- ③ 実際を想定した避難訓練
- ④ 迅速で的確な判断を行うための知識・情報確保手段・自治体等との連絡網の準備、子ども、家庭だけでなく保育者を守ることも考えた判断の必要性
- ⑤ 食料等備品の実際を想定した整備

※ 今回は家庭の協力の下、保育を行えたが、携帯の取り扱い、冬季間の暖房等の課題を意識していた。



【考察】

1. 保育園の被害状況と対応の実態

保育園の被害状況は、停電が主なもので、それに伴う休園や自宅で過ごしていただく協力要請の判断、各家庭への連絡、開園した保育園では給食提供の工夫が求められた。子ども・家庭・保護者に大きな被害がなく、電源がない中でできる範囲での対応を行い、家庭の協力の下、保育を行った。しかし、職員個人の携帯電話を使用したことでその後の個人情報問題も課題として挙げられている。

2. 地震後の子どもと保育者のストレスの実態

6割以上の保育施設で子どもに何らかのストレスがあることが明らかになった。子どもの様子では「ふいに地震の事を思い出し話す」が一番多く、地震後2～3ヵ月後も5歳児では3割を超える。地震は深夜に起こり子どもは眠っていたと考えられるが、繰り返す余震やメディアなどの影響が考えられる。甘える様子は月齢の低い子どもの方が多く2～3ヵ月後にはかなり減少している。身体症状が現れた数は少ないが月齢の高い子どもの方が多かった。自由記載から地震ごっこ等の遊びを通してストレスを処理していると考えられる。ストレスの現れ方には震度や子どもの発達差がみられた。保育者の緊張・動揺は長く続き、震災によってストレスを受けている子どもを、保育者自身も緊張・動揺した状態で保育していたことが分かった。

3. 子どもの命を守るための保育環境整備と保育園に必要な備え

以下の5点が挙げられる。

- ① 停電になっても行える家庭との連絡方法の構築
- ② 停電や流通が止まることによる給食提供の備え
- ③ 停電になっても確保できる冬季の暖房の備え
- ④ 実際を想定した災害マニュアルの整備や避難訓練の見直し
- ⑤ 迅速で的確な判断のための情報共有や地域との連絡方法の構築
- ⑥ 子どもの「心のケア」に関連した研修と、保育者と子どもへの心理的なサポート体制の形成

【参考文献】

吉村真理子、大野雄子著「震災による幼児のストレス反応(I)」(『千葉敬愛短期大学紀要』第34号所収)2012年、1-10頁。